

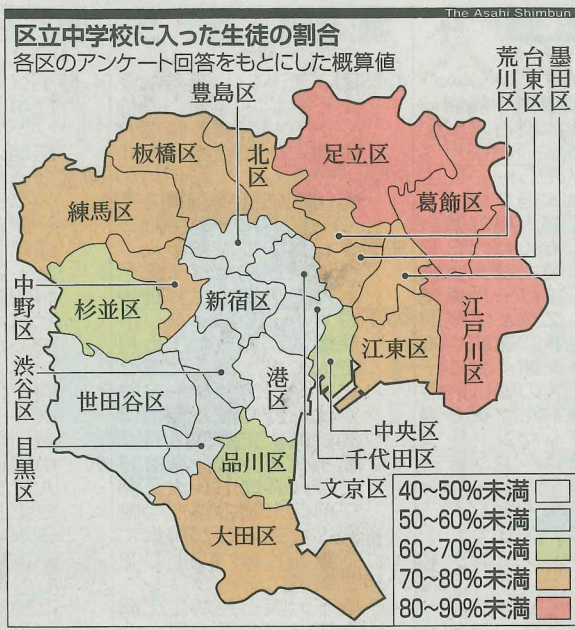
23区、区立中進学は7割

東京23区の中学1年生のうち、区立中に通っている生徒は7割にとどまることが分かった。残りの大半が私立・国立中や公立中高一貫校を選んだとみられる。全国平均では92%が公立中に通っており、東京都心の突出した受験熱がうかがえる。区立小に通う割合も全国平均を下回り、7割台にとどまる区もあった。

全国平均92% 港区47%

受験熱目立つ中西部

朝日新聞は23区の各教育委員会に、区内に住む小1立小中の入学者数(いずれ



も昨春時点)を尋ねた。区立に進まなかった子の中には、インターナショナルスクールに進んだケースなどもある。外国籍や特例で区外から通学する子ども数を含むかどうかなど、各区の回答に違いはあるが、中学の場合、23区全体で区立中入学者は概算値で71%。60%未満が8区あった。

割合が最も低かったのは港区で、生徒12,599人のうち区立は5,900人(47%)にとどまった。区の人口は約21万人だが、区立全

10校のうち4校は1年生が1学級のみだ。区教委の担当者は「23区内でも交通の便が良かったため私立に通いやすく、受験に積極的なのではないか」とみる。

目黒区は54%。区教委によると、60%超だった約10年前から徐々に減ったという。担当者は「下落は、区立への信頼低下を示すのかもしれない。学力向上や学校選択制などの施策に取り組んでいるが、区立の割合増に結びついていない」と悩んでいる。

区立の割合が低い区は、23区の中西部に偏る。公立中進学率が60%未満だった8区には、23区にある私立中の6割が集中する。近くに私立があるという地理的条件も一因とみられる。また、ある学習塾の経営者は

「区立に進む割合が低い区は、地価や家賃が高い都心の区が多い。親に経済的な余裕があれば私立を選ぶ傾向がある」と話す。

中学受験人気は不況や震災による陰りも指摘されているが、東京では根強い。

大手学習塾の日能研によると、都内の受験生数(推計)は2000年の1万8600人から、昨年は3万人に。公立中高一貫校ができた影響もあるが、同社広報部は「区立の学力指導があまり信頼されていない結果」とみる。大半の区が、学区外の区立中にも通える学校選択制を採り入れているが、「受験家庭を振り向かせるまでの魅力ではない」という。

一方、区立小へ通う子どもの割合は、概算値で23区全体が92%。千代田、港、新宿、渋谷の4区が70%台だった。国の学校基本調査(10年度)によると、全国では98%が公立小に通う。

小学校受験の教室「アンテナ・プレスクール」(渋谷区)の石井至校長は、「08年のリーマン・ショック以降、私立小を受験する幼児は減っている。しかし、東京には私立小が多いため、区立不信の家庭が毎年ある程度は私立に向かっている」と話している。

(岡雄一郎)

ワカサギ…実は最古のアユだった



40年ほど前に掘後、保管庫で、アユの最古明した。1千万とを示す貴重な師が、歯科用の特徴的な歯の形

ラーメン店に車客ら7人重軽傷

栃木・芳賀

6日正午ごろ、栃木県芳賀